自由民主党

世田谷区議会議員

和田ひでとし通信

区政レポート

令和三年七月 発行

第二十八号



令和三年の前半は、ほぼ緊急事態宣言の中で過ぎてしまい、二年目のコロナ禍は人々の生活を大きく変えてしまいました。ワクチン接種は徐々に進み、今年の後半、夏から秋にかけてなんとか収束に向かって、少しでも元の生活に戻れることを願っております。

和田ひでとしは、二年間の議長の職務を、本年五月十九日をもって交代しました。これまでの二年間は議会を代表してという立場でしたので、重く緊張の連続でしたが、これからは一議員として現場の様々な課題にも直接かかわりながら、世田谷区の発展に努めてまいります。

和田ひでとし、久々の一般質問



6月16日、議長交代後初の定例会本会議に臨みました。この2年間は議会での質問はできず、またさらにその前2年間は会派の幹事長を務め、年1回の会派を代表しての代表質問でしたので、一般質問は実に4年ぶりです。そのため今回は地元の課題を中心に10分間の持ち時間で質問しましたので、一部を抜粋してお知らせします。全体についてはインターネット議会中継でご覧ください。

（本会議3日目一般質問 6/16の午後29番目）

「奥沢センタービル耐震化について」



奥沢駅前の奥沢センタービル・三敬ビルには、区が運営する公共施設として、奥沢区民センター、奥沢図書館、そして現在は一時的にやむなく移転して仮運営となっていますが、奥沢子育て児童ひろばが設置されており、地元の皆さんにとって、これらは大変貴重な公共施設であります。

しかし、この建物は区の公共施設で唯一耐震化されていない建物であり、地元区民の皆さまからも利用者の安全・安心の確保の観点から、何としても早急に耐震化を図っていただきたいとのお声を、かねてからいただいておりました。

ですが、耐震性の不足が指摘されてから6年が経過し、工事の契約が解除になった以降、何ら対応が進まず、現時点でも耐震補強工事着手の目途がたっていないように聞いています。



QUESTION

区は、耐震化工事の契約解除以降どんな取組みをしていたのか、耐震化工事に向けて、今後どう行動していく考えなのか、また権利者の合意形成が整わず、このまま耐震化が進まない場合どう対応し、そしてこの状況についてどう考えているのか、区の見解を伺います。

ANSWER



副区長

区では、奥沢センタービルについて、耐震補強工事の契約が解除になった以降も、工事に賛同している区分所有者の方々と協力しながら、工事内容を精査し、費用負担を軽減することで権利者のご理解を得やすくするとともに、工事の進め方について権利者全員にアンケートを実施し、課題を抽出するなど、再度の工事実施に向け、不断の取組みを進めてまいりました。

引き続き、全体管理組合の理事長として、理事会や権利者の方々とも話し合いながら資金を確保し、一刻でも早い耐震化工事の着手を目指してまいります。

また、区といたしましては、耐震性の不足が確認されて以降、6年が経過しているにも関わらず、対策が進展していないことを大変憂慮しております。

何れにいたしましても、発生が想定される大地震に備え一歩前に踏み出すことが重要であり、区民が奥沢区民センター・図書館・子育て児童ひろばを安全・安心に利用できるよう、公共施設の管理者として強い意思をもって取組んでまいります。



すでに区は新たな公共施設は増やさない方針を打ち出しています。つまり現在ある施設を確実に維持していくということです。であるならば、区内で唯一耐震化されていないこの公共施設を、地元の皆さんがすでに6年以上使い続けてきたということ、そしてこの先いつまでこのような状況が続くのか、不安は募るばかりです。いずれも地域コミュニティの核となる大切なこの施設をしっかりと維持していかなければなりません。

「児童館の未整備地区解消～学校との複合化～」

区では区内28地区すべてに児童館の整備を目指していますが、未整備地区が区内に8地区もあり、大きな課題となっています。

この度、未整備地区について学校等との複合化を基本に計画的な整備を行う計画が発表されました。





QUESTION

学校の機能と児童館の機能を両立していくうえでの課題を区はどのように捉え、解決していくつもりであるのか伺います。

裏面へつづく

区議会議員 これまでの10年

平成23年（56歳）　初当選
- 自由民主党区議団副政調会長（平成23年）
- 前半 都市整備常任委員会
- 前半 地方分権・地域行政制度対策等特別委員会
- 後半 企画総務常任委員会
- 後半 公共交通機関対策等特別委員会

平成27年（60歳）　2期目当選
- 区議団政調会長（平成27年）
- 自由民主党区議団幹事長（平成29年・30年）
- 前半 企画総務常任委員会（委員長）
- 前半 地方分権・地域行政制度対策等特別委員会
- 後半 文教常任委員会
- 後半 公共交通機関対策等特別委員会

平成31年（64歳）　3期目当選
- 区議会第62代議長（令和元年5月~令和3年5月）
- 前半 文教常任委員会
- 前半 オリンピック・パラリンピック対策等特別委員会
- 後半 都市整備常任委員会
- 後半 公共交通機関対策等特別委員会

ここまでの世田谷区議会議員としての10年間はまさに激動の毎日でした。初当選は東日本大震災の直後でしたし、2期目当選直後には同志先輩議員の急逝、3期目は新型コロナウイルス感染症と、大変な状況の中をいろいろなお役をいただきながら、くぐり抜けてきたような気がします。

まずは戸惑いながらもここまでくることができたことに感謝しつつ、今期の残された任期（令和5年4月まで）を全うしてまいります。



インターネットで「わだひでとし」と検索してください！

わだひでとし　検索

あなたのご意見をお聞かせください！

info@wadahidetoshi.com

ご意見・ご感想はこちらまで　〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 1-40-2　TEL 03-3720-3542　FAX 03-3720-6928

表面からのつづき

ANSWER

改築による学校と児童館との複合化にあたりましては、児童館の利用対象者や開館日時を踏まえた利用動線の明確化やセキュリティー区分の確保、学習環境の確保など、それぞれの管理・運営面を考慮した施設計画が必要であるものと考えております。
一方、既存校舎を活用した複合化事例は保育園などがございますが、施設配置や規模などが制約されることから、児童館については、その利用者が乳幼児と、その保護者から中高生世代と幅広く、また、規模が比較的大きいため、動線や機能確保などの課題解決が困難となることが想定されるものと認識しております。



教育総務部長



QUESTION

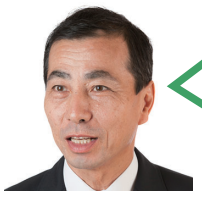
未整備地区のひとつ奥沢地区では奥沢中学校の棟別改修の基本構想が今年度始まり、地元の皆さんから、奥沢中学校に児童館を併設することを求める要望書が提出されました。要望書をうけての区の考えを伺います。

ANSWER

区では、幅広い利用者や地域ネットワークを持つ児童館を、地区における子どもの相談支援を行う中核として位置づけ、まちづくりセンターごとの地区に整備していくこととしております。
お話しのありました奥沢地区を含めて、児童館が整備されていない８地区（太子堂、上馬、代沢、北沢、松原、奥沢、九品仏、二子玉川）につきましては、公共施設等総合管理計画と整合を図りながら、学校等との複合化を基本に、計画的な整備を行っていく方針です。
奥沢中学校は、昭和33年に竣工し、今年で築63年を迎えます。当中学校の改修、改築の検討にあたっては、ご要望いただいております児童館機能を担うために必要な面積を確保した複合化の可能性について、関係所管と具体的に協議してまいります。



子ども・若者部長



QUESTION

改修での複合化によって、児童館が実現できることを地元の皆さんは切に願っております。先ほどの部長答弁では関係所管と具体的に協議していくとありましたが、多くの課題を乗り越えなければなりません。領域をまたぐということでもあり、各所管の連携が非常に重要です。区の力強い答弁を求めます。



複合化が期待される奥沢中学校北校舎

ANSWER

様々に課題はございますけれども、ご指摘の奥沢中学校への児童館の複合化につきましては、教育委員会、子ども・若者部、さらには関係各所管部全体をまたぎまして、連携させまして、実現できますよう、具体的に検討を進めさせていただきます。

副区長



区役所へも総合支所へも行き辛く、そして児童館もない。自分たちでまちづくりを主体的に進めなければならない奥沢・九品仏両地区の皆さんにとって、地元の公共施設、区民センター・図書館・児童館が、どれだけ重要な公共施設であるか、改めてご理解いただき、耐震化と児童館整備の実現を強く要望してまいります。

今さらですが、児童館の役割とは

児童館は、幅広い利用者と地域ネットワークを持つという特徴を生かして、多様な地域資源と連携・協力し、相談支援や見守りネットワークの中核的役割を果たします。
それにより切れ目のない支援や、見守りを強化し、子どもや子育て家庭が身近な地区の中で安心して生活ができることを目指しています。

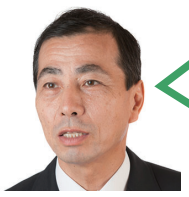
～ 世田谷区の児童館の特色 ～

- 身近な地区の中で、相談支援や見守りの中核的役割を果たすことができるよう区内全28地区に再整備を目指します
- 子育て支援館と中高生支援館を５地域に各１館ずつ整備しています
- 妊娠期のお母さんから18歳未満まで幅広い年代が利用しています
- 地区に関わらず児童館を選んで利用している子どもたちに対応した相談や見守りなどの仕組みがあります

「コロナ禍と、認知症予防・介護予防」



コロナ禍で高齢者の活動も大きな制限を受けています。特に人と人との接触が減り、会話や会食等仲間同士の活動がほとんどできなくなってしまっている状況です。高齢者は特に家にこもりがちになってしまう中、ワクチン接種は徐々に進んできておりますが、もうしばらくは続くと思われるコロナ禍で、認知症予防・介護予防の観点から、あんしんすこやかセンターの存在は益々重要になってきています。



QUESTION

各地区の最前線で活躍している「あんしんすこやかセンター」の重要性を、どのようにとらえ、フォローしていくつもりであるのか、区の見解を伺います。

ANSWER

あんしんすこやかセンターでは、身近な相談窓口として相談に応じるほか、85歳以上のひとりぐらし等の高齢者や転入者などのお宅へ生活状況の把握のための訪問を行うなど、介護予防につなげる相談等を積極的に行っています。さらに、民生委員、町会、商店等と連携し、見守りのネットワーク構築に取り組み、そこからの情報により、より広範に、高齢者への支援に努めており、地域とのつながりを深める上でも、あんしんすこやかセンターの役割は重要であると認識しております。

高齢福祉部長



今後コロナが収束できたとして、2025年問題、いわゆる団塊の世代の皆さんが後期高齢者に突入する時期が、すぐそこに迫っており、益々認知症予防・介護予防は重要になってまいります。



QUESTION

コロナ後にこれまでのような地域活動ができるかは不透明であります。今後の認知症予防・介護予防にどのように力を入れていくのか、区の見解を伺います。

ANSWER

2025年に向けて後期高齢者の増加も見据え、区では、介護予防の取組みが重要であると認識し、可能な限り自立した生活が送れるよう、介護予防に必要な知識やスキルの普及啓発や住民主体の活動支援による介護予防の地域づくりに取り組んでまいりました。
コロナ後を見据えた今後の取り組みについては、コロナ前のような会場での活動に加えて、オンラインによる介護予防事業を展開するとともに、活動団体に対し、不安を払拭できるよう集団活動における感染予防方法の助言や、フレイル予防が必要な利用者をつなぐ等、あんしんすこやかセンター等による活動再開支援を行ってまいります。

高齢福祉部長





現場である「あんしんすこやかセンター」の職員の皆さんは、高齢者施策から子育て支援まで、多岐にわたっての相談を受けております。各地区の実情をしっかりとらえて支援につなげていただきたいと思います。